

デザインレクチャー

Design Lecture 2020 Season I

～ 予測不可能な世界を生き抜くための 企画・デザインの発想を学ぶ ～

京都大学デザインスクールで実際に行われている講義を中心に、企業向けに再編したレクチャーシリーズを開催します。予測不可能な時代（VUCA*）と言われる現在、異質なナレッジ、真の課題発見、解決策のデザイン力が必要とされています。そのためには、異分野の知見を学び、それぞれの分野で培われたデザイン理論・手法を理解し、その礎を築くことが大切です。

本プログラムは、京都大学デザインスクールの教員が、各分野のデザイン理論・手法を説く集中シリーズで、シリーズ全体を通しての受講をお勧めします。

前期のSeason I ではこれまで開催した同様の講義に加え、新たな講義を開催します。初めての方、前回都合がつかなかった方はもちろん、再度じっくり学びたい方も、是非受講ください。

※単発の受講も可能です。

*VUCA: Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性)

第1回 7/10 金 15:00 ~ 17:45

エスノメソドロジーと人間行動のデザイン

自然な人間行動の調査とそれに基づくサービスデザイン



平本 毅
Takeshi Hiramoto
京都府立大学 文学部 准教授

第2回 7/31 金 15:00 ~ 17:45

人工物のデザイン

熟練技能の「獲・活・伝・創」システム



榎木 哲夫
Tetsuo Sawaragi
京都大学大学院 工学研究科 教授

第3回 9/11 金 15:00 ~ 17:45

心を探る研究のデザイン

知性の可塑性へ挑む認知心理学の方法論



齊藤 智
Satoru Saito
京都大学大学院 教育学研究科 教授

デザインレクチャー 2020 Season I

主催：京都大学デザインイノベーションコンソーシアム
後援：京都大学デザイン学大学院連携プログラム
対象：コンソーシアム会員、非会員・一般
参加費：正会員A・E・特別会員 無料 / 1回
正会員B 1,000円 / 1回
非会員・一般 5,000円 / 1回
※参加費は、お申込み時にお支払いください。
会場：公益財団法人京都高度技術研究所 2階研修室
<https://www.astem.or.jp/about/access>

申込受付期間

第1回	2020年 6月 5日 (金) ~ 7月 3日 (金)
第2回	2020年 6月 26日 (金) ~ 7月 27日 (月)
第3回	2020年 8月 7日 (金) ~ 9月 4日 (金)

※事前申し込みが必要です。
※申込フォームURLは受付期間前にホームページでお知らせいたします。

新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、開催方法の変更、開催を延期・中止する場合がございます。
詳細につきましてはホームページでお知らせいたします。
何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

【問合せ】 京都大学デザインイノベーションコンソーシアム事務局

✉ メール : info@designinnovation.jp
🌐 ホームページ : <http://designinnovation.jp/>

申込はコチラから

QRコードからもホームページをご確認いただけます。
<http://designinnovation.jp/>





第1回

エスノメソドロジーと人間行動のデザイン

自然な人間行動の調査とそれに基づくサービスデザイン

何かデザインを行なったとして、そのデザインが有効であるのは、自然な人間行動の中に埋め込まれた時である。だから、「自然な人間行動とは何か」を調べることは、デザイン実践と研究にとって大きな意味をもつ。この問題に、人同士のコミュニケーション（たとえば小売店の接客）という側面から取り組んできたのが、「エスノメソドロジー」と呼ばれる社会学の方法である。エスノメソドロジーは実際のコミュニケーションを観察し、人がその場で自然に行動する条件を明らかにする。このレクチャーではエスノメソドロジーの考え方と具体的な接客場面の分析例を紹介しつつ、分析によって明らかにした自然な人間行動に基づいたサービスデザインについて議論する。



平本 毅

京都府立大学 文学部 准教授

立命館大学大学院社会学研究科博士課程後期課程修了。博士(社会学)。専門はエスノメソドロジー・会話分析。近年は江戸前鮎屋、ハンバーガー屋などの小売店、とくに飲食店の接客場面の分析に従事しており、その分析に基づいたサービスの理解と、サービスデザインの実践とのかかわりを研究している。主な編著書に、『会話分析入門』 勁草書房、『会話分析の広がり』 ひつじ書房ほか。

参考図書

山内裕・平本毅・杉万俊夫(2017)『組織・コミュニティデザイン』 共立出版。

第2回

人工物のデザイン

熟練技能の「獲・活・伝・創」システム

少子高齢化社会の最大の懸念は、これまで現場で培われ人に宿してきた熟練技能や暗黙知の持続可能性、すなわち熟練技能者からどのように獲得し、活用し、伝承し、新たな創造に繋げることができるかです。本講演では、熟練技能の作業観察からの分析法とインタビューによる見える化、技能のモデリングによるカイゼンのための活用法、教示者-学習者のインタラクション分析とサイバー空間を活用した伝承と学び等について、人工物のデザイン手法によるアプローチについて講述します。



榎木 哲夫

京都大学大学院 工学研究科 教授

京都大学大学院工学研究科博士後期課程研究指導認定退学、京都大学工学博士。京都大学工学部助手、助教授を経て、2002年工学研究科精密工学専攻教授、2005年改組により同研究科機械理工学専攻教授、現在に至る。この間、1991-1992年米国スタンフォード大学客員研究員。専門はシステム工学、人間機械系、認知工学。公益社団法人計測自動制御学会、システム制御情報学会、ヒューマンインタフェース学会、の会長等を歴任。

参考図書

本講演内容に係る編著書として、『スキルと組織』（国際高等研究所）、『アーティファクトデザイン』（共立出版）など。

第3回

心を探る研究のデザイン

知性の可塑性へ挑む認知心理学の方法論

人間の心の働き、とりわけ知能などの知的能力一般を向上させようという挑戦には長い歴史がある。こうした試みは、これまで失敗に終わってきたが、近年、ワーキングメモリという認知機能をトレーニングすることで、知的能力一般を強化しようという試みが活発である。本講義では、こうしたワーキングメモリ・トレーニングの研究を概観するとともに、トレーニングの効果を正当に検討・評価するための研究デザインの重要性を論じる。その中で、認知心理学の方法論に基づく研究デザインから明らかになった知性の可塑性の特徴を紹介していく。



齊藤 智

京都大学大学院 教育学研究科 教授

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了、京都大学博士(教育学)。鳴門教育大学助手、大阪教育大学助手、同助教授、京都大学大学院教育学研究科助教授、准教授を経て、2016年教育学研究科教育認知心理学講座教授、現在に至る。この間、英国ブリストル大学、ヨーク大学、ランカスター大学客員研究員、英国マンチェスター大学名誉准教授。専門は認知心理学・記憶科学。日本心理学会代議員、日本認知心理学会国際委員、日本ワーキングメモリ学会理事。



Time Table

15:00	16:15	16:30	17:45
講義 (前半 75分)	休憩	講義 (後半 75分)	終了

※変更する場合がございます。

申込受付期間

第1回 2020年 6月 5日(金)～7月 3日(金)

第2回 2020年 6月26日(金)～7月27日(月)

第3回 2020年 8月 7日(金)～9月 4日(金)



※事前申し込みが必要です。

※申込フォームURLは受付期間前にホームページでお知らせいたします。

新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、開催方法の変更、開催を延期・中止する場合がございます。

詳細につきましてはホームページでお知らせいたします。

何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

[キャンセルについて]

- ・お申し込み後のキャンセルはご遠慮願います。
- ・やむを得ずキャンセルされる場合は、事務局へメールにてご連絡ください。
- ・キャンセルに伴う不利益(返金手数料の発生等)については、主催者では責任を負いかねます。

Point



- それぞれの専門分野における問題の捉え方や解決策のデザイン方法がわかります。
- 自らの分野・業界の発想や問題の解決方法は限定的であり、バイアスがあると気付きます。
- どの分野のメンバーでプロジェクトチームを構成すれば、真の問題発見や望ましい解決策のデザインが可能となるか、計画できるようになります。